

2024

春闘の
取組み

「継続的な賃金改善の実現」に向けて 生保協会へ早期申入れを実施!

～生保労連の「基本スタンス」を決定～

消費者物価の上昇などが組合員のみなさんの生活や活動に大きな影響を与える中、生保労連は、これまで以上に賃金改善の機運を産業全体で高め、2024春闘の取組みを進めていく必要があると考えています。そうしたことから、従来よりも前倒しで春闘論議を行い、11月8日の第3回中央執行委員会で「継続的な賃金改善の実現」に向けて全組合が最大限の取組みを行うことを生保労連の「基本スタンス」として決定し、11月22日開催の第413回労使協議会で生保協会に申し入れました。

今後は、この「基本スタンス」をもとに「統一要求基準^{*}」を策定し、2024年1月開催の第57回中央委員会で決定する予定です。組合員のみなさんの生活の安定・向上やモチベーション・働きがいの向上をはかるべく、全組合の「収入の向上」の実現をめざして積極的に取組みを推進します。

※統一要求基準:「賃金改善・営業支援策の充実」について、全組合参加による統一闘争を構築するための基準



3 すべての人に
健康と福祉を

8 働きがいも
経済成長も

10 人や国の不平等
をなくそう

2024春闘における生保労連の「基本スタンス」

主な課題認識

- 消費者物価の上昇が組合員の生活や活動に大きな影響を与えており、組合員の将来に対する不安が増している。
- 人手不足や「人への投資」に関する考え方の定着・浸透などを背景に、社会全体で賃上げの動きが広がる中、仮に生保産業がその流れに後れを取ることとなれば、結果として生保産業で働くことの魅力が低下する。
- 「生産性の向上」が一層求められる中で、組合員一人ひとりの能力やパフォーマンスの向上をはかる観点から、各種支援を求めていく必要がある。
- 大きな従業員規模を持つ産業として、物価上昇を超える賃上げによる「経済の好循環実現」という社会的要請にも応えていく必要がある。
- 生保産業においても労使間での春闘議論を早期に進め、賃金改善の機運を高めていくことで、継続的な賃金改善につなげていく必要がある。



(11/22 第413回労使協議会)

2024春闘の方向性

「組合員の生活の安定・向上」
「『人への投資』を通じたモチベーション・働きがいの向上」
「個人消費の拡大・下支えを通じた『経済の好循環実現』」をはかる観点から、

- ① 引き続き上昇傾向にある消費者物価への対応
- ② 社会全体の賃上げ・ベアの動きに対応した継続的な賃金改善の実現
- ③ 「生産性の向上」に向けた各種支援の充実

に向け、全組合が最大限の取組みを行う。

2024春闘の今後のスケジュール

2024	1/16	第57回中央委員会で「統一要求基準」を含む「春季方針」を決定
	1/25	第415回労使協議会で「春季方針」を申し入れ